

科目名	購読演習	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	中村 友紀
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日1限 月曜日2限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師現場経験のある教員から、現場実習や就職活動時に必要な履歴書の作成(自己PR・将来の目標)の仕方を学ぶ。 就職活動に向けて模擬面接を行い、夢の実現のための心構えを持つ。							
【授業を通じての到達目標】							
就職活動に向けて必要なことを学び、行動が計画的スムーズに行えるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
Ipad 筆記用具							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	就職活動マニュアル／後期目標シート						
2	履歴書基礎知識(学歴～資格)／スタイルブック制作<準備>					5点	
3	履歴書(自己PRワークシート)/スタイルブック制作						
4	履歴書(自己PRワークシート)/スタイルブック制作					5点	
5	履歴書(将来の目標ワークシート)/スタイルブック制作						
6	体育祭準備						
7	履歴書作成(個人情報、学歴、資格、自己PR、将来の目標完成)					中間テスト 20点	
8	模擬面接準備						
9	模擬面接					5点	
10	内規便覧 / スタイルブック発表						
11	サロン研究 / 全身写真の撮り方						
12	就職活動に向けて、受験先の候補を調べる／面接対策					5点	
13	保険の仕組み						
14	コンテスト準備 コンセプトシート作成						
15	コンテスト準備 コンセプトシート完成／仕込み					配点 60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	保 健	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	米山 乃生子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日1限 月曜日2限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
人体構造に関する講義では、学生たちが人体に興味を持てるような内容の授業を展開していく。まずは「人体の仕組みや構造に興味を持ってもらうこと」が知識習得の近道であるため、実際に自分達の生活や経験に関連付けた内容で、わかりやすく説明し、名称の暗記等だけではなく、根拠に基づいた深い理解を目的とする。皮膚科学においては、1章・2章で学ぶ皮膚の基本構造の習得が、その先の理解に大きく影響してくるため、序論の部分が確実に学生の知識となることを目的とする。疾患等の内容に関しては、美意識や美容などの話題を取り入れ、学生たちの興味や関心を惹き、記憶に残りやすい伝え方で展開していく。 <教員経歴> 病院での臨床経験をもった教員が、人体構造に関する授業を講義する。							
【授業を通じての到達目標】							
人体構造、皮膚科学ともに、2年次での再確認や復習に役立つような内容の授業を展開していく。毎回の授業で確認テスト(小テスト)を実施し、各回ごとに自分の得意不得意を明確にしていく。1年次においてもできるだけ「試験に慣れる」「4択問題に慣れる」といった国家試験を意識した進め方に重点を置き、期末試験までの間に小テストを計12回、中間テストを計2回計画。頻回にテストを経験することで、国家試験に向けての意識を高め、出題傾向を把握し、正解率の精度を高めていくことを達成目標とする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
公益社団法人日本美容美容教育センター 保健				各回のテスト範囲を事前に伝えることで、自宅学習・事前学習の動機づけとする。			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	1編 第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖・第2章 骨格器系						
2	1編 第3章 筋系						
3	1編 第4章 神経系					5点	
4	1編 第5章 感覚器系						
5	1編 第6章 血液と免疫系					5点	
6	1編 第7章 循環器系						
7	1編 第8章 呼吸器系 ・ 第9章 消化器系						
8	中間テスト① 1編 「人体の構造及び機能」					中間テスト 20点	
9	2編 第1章 皮膚の構造						
10	2編 第2章 皮膚付属器官の構造・第3章 皮膚の循環器系と神経系					5点	
11	2編 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能						
12	2編 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健					5点	
13	2編 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患						
14	2編「皮膚科学」復習						
15	期末試験 保健 1編「人体の構造及び機能」2編「皮膚科学」					配点 60点	
【特記事項】保健に関しては「1編:人体構造」・ 「2編:皮膚科学」と内容が区分されているため、各編ごと振り返りの意味で3回目以降は1回ずつ確認テストを実施。					【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。		

科目名	関係法規・制度	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井 識章
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3限 月曜日4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
目的:美容師法を学び、美容師として公衆衛生の向上に役立てること、また法令違反をした場合の行政処分や罰則について学び、法令順守を理解する。 概要:美容師国家試験の筆記試験科目の1つです。この科目では、美容師法や美容業に関連する様々な法規について学び、美容師として、開設者として遵守すべき法令や知識を学ぶ。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師・経営者（開設者）が遵守すべき法令を理解する。 基本的な法律用語や知識を身に付ける。 ルールを守り、美容の業を適正に実践する美容師になる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、法令集							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	本科目の説明 社会生活における法の役割、法の形式、衛生法規の概要、衛生法規の分類						
2	衛生行政の意義と歴史、衛生行政の分類、保健所の役割					5点	
3	美容師法の目的、用語の定義、美容師養成施設						
4	美容師試験、免許の申請と登録、欠格条件					5点	
5	美容師の義務（衛生措置、美容師免許の変更・紛失などの手続き）						
6	免許取消処分・業務停止処分 管理美容師						
7	中間試験 （中間試験終了後）美容所を開設するための手続き					中間テスト 20点	
8	中間試験の解説 美容所の開設届、検査確認、重複開設、開設者の継承						
9	開設者の義務（衛生措置） 美容所以外での業務、立入検査と検査確認					5点	
10	行政処分と罰則						
11	衛生に関する法律						
12	業の振興に関する法律・雇用に関する法律					5点	
13	消費者保護に関する法律						
14	定期試験						
15	定期試験の振り返り・総まとめ（練習問題）					配点 60点	
【特記事項】 小テストは、Teamsを使用します。 中間試験、定期試験は、問題と解答用紙を配布して実施する予定です。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価（90～100点）/B評価（80～89点）/C評価（70～79点） D評価（60～69点） E評価（出席不良・評価資格喪失）/F評価（0～59点・不合格） ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	衛生管理	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	島津 美幸
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3限 月曜日4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
目的:美容業は不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて業務をするところにあり、その業務に就くうえで個人としての衛生を保つだけでなく、業を通して公衆衛生の維持と増進への責務の重要性を知る必要がある。また、感染症の正しい知識と拡大まん延予防対策、消毒法などを学ぶことにより、社会生活においても不安を与えず実践できるということを理解することができる。 ＜教員経歴＞ 臨床経験を持つ教員が、その経験をもとに衛生管理の重要性について講義する。							
【授業を通じての到達目標】							
衛生管理の意義と本質を明らかにする。また、国家試験科目でもあるため、各項目の重要点をまとめたプリントや問題集を用いてより理解を深める。また、問題集等を利用し苦手箇所を反復し克服する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
公益社団法人日本理容美容教育センター 衛生管理							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	オリエンテーション、授業科目の概要や進め方、《第1章消毒法総論1節・2節》						
2	《消毒法総論3・4節》					5点	
3	《第2章消毒法各論1節1・2》・						
4	《消毒法各論1節3・4、2節1》					5点	
5	《消毒法各論2節2、3》						
6	中間テスト対策・《消毒法各論2節4・5》						
7	中間テスト・フィードバック・《消毒法各論3節1・2》					中間テスト 20点	
8	《第3章消毒法実習1節1・2》						
9	《消毒法実習1節3・4》					5点	
10	《消毒法実習2節1～6》						
11	《第3章消毒法実習3節1～3》						
12	《第2章消毒法実習3節4～6》					5点	
13	《衛生管理の実践例》						
14	衛生管理技術重要ポイント等の確認・期末テスト対策						
15	定期試験					配点 60点	
【特記事項】 小テストは、Teamsを使用します。 中間試験、定期試験は、問題と解答用紙を配布して実施する予定です。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	美容実習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	尾崎 真由美
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	300 (10)	開講区分	後期
						曜日・時間	火曜日～木曜日 1, 2限 3限,4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
カット、サロンワーク、カラー、シャンプー、ヘアメイク、メイクなど美容師としての技術全般を習得する。 国家試験に必要な技術と知識を学ぶ。 前期で学んだ技術、知識をブラッシュアップさせ、より高度な技術を取得する。 〈教員経歴〉 ヘアサロンで美容師として勤務していた教員が将来実践の現場で活用できる技術、知識を基礎から応用まで習得できる授業を行う。							
【授業を通じての到達目標】							
卒業後即戦力となる人材になる基礎を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ワインディング道具一式、オールウェーブ道具一式、カット道具一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	サロンワーク応用①						
2	サロンワーク応用②					5点	
3	ワインディング①						
4	ワインディング②					5点	
5	ワインディング③						
6	シャンプー応用①						
7	シャンプー応用②					中間テスト 20点	
8	カット技術応用①						
9	カット技術応用②					5点	
10	カット技術応用③						
11	スタイリング応用①						
12	ブライダル演習①					5点	
13	作品撮り演習①						
14	オールウェーブ①						
15	オールウェーブ②					配点 60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	美容技術理論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	神谷 明日香
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日2限 木曜日3限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
美容の基礎知識を習得できるようにする。 内容を理解できるよう、実際の教員の経験も交え、パワーポイントやプリントなどを用いて授業を進めていき、クイズなど演習問題を解きながら授業を展開します。							
<教員経歴> ヘアサロンにて美容師として勤務していた教員が担当。美容の基礎知識を習得できるようにする。							
【授業を通じての到達目標】							
実際にサロンでも活かせるよう、ポイントを踏まえながら理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論Ⅱ							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	エステティク						
2	エステティク					5点	
3	ネイル技術						
4	ネイル技術					5点	
5	メイクアップ						
6	メイクアップ						
7	中間テスト					中間テスト 20点	
8	中間テスト解説・日本髪						
9	日本髪					5点	
10	着付けの理論と技術						
11	着付けの理論と技術						
12	ウェディング					5点	
13	総合復習						
14	定期試験						
15	定期テスト解説					配点 60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点)/E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	美容総合技術	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岩本 賢矢
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日1,2限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
美容師経験者から最新の技術・知識の取り入れ方から幅広く学び、美容技術向上を目指す。 パーマ、カラー、カット、メンズカット、レディースセットなどの技術を実践形式で学ぶ。							
〈教員経歴〉 ヘアサロンにて美容師として勤務していた教員が担当。 美容師としての経験をもとに、現場でともめられる知識・技術を提供する。							
【授業を通じての到達目標】							
プロとしての心構え、気構え、身構えを学び、今後の美容師としてのマインドを向上し社会人基礎力を身につけることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
Pad、名札、エプロン、クランプ、美容ウィッグ、テールコーン(ピンク)、ダックカール5本以上、延長コード、 テオール(同色でも可、授業により枚数は異なる)、カールアイロン、ストレートアイロン、スプレーヤー(ト リートメントの入っていないもの)、シザーケース(シザー、カットコーン)							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	レディースカット(基礎)						
2	レディースカット(応用)					5点	
3	メンズカット(基礎)						
4	メンズカット(応用)					5点	
5	レディースパーマ						
6	レディースパーマ						
7	メンズパーマ					中間テスト 20点	
8	メンズパーマ						
9	レディースカラー(デザインカラー)					5点	
10	レディースカラー(デザインカラー)						
11	メンズカラー(デザインカラー)						
12	メンズカラー(デザインカラー)					5点	
13	ヘッドスパ(トリートメント)						
14	ヘアショー準備						
15	ヘアショー準備					配点 60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価 する。			

科目名	国際教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 友紀
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 集中
						曜日・時間	指定期間
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師現場経験のある教員及び海外で活躍するヘアメイクアーティスト(ゲスト)の実演を通して、ヘアメイク技術、知識の幅を広げる。 他国の技術、知識、文化を学び自身の美容師としての幅を広げる。							
【授業を通じての到達目標】							
より広い視野で物事をとらえる国際的感性を学ぶ。他国の技術、知識、文化を学び自身の美容師としての幅を広げる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ipad 筆記用具							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	・日本と海外のヘアメイクの違いについて、調べ学習や発表を通して理解を深める。 ・海外研修プログラムの概要を理解する。						
2							
3							
4							
5	・海外研修の内容を理解し、イメージを広げる。 ・昨年参加した先輩から話を聞き、学びを深める。 ・研修先の施設を調べ、どのようなプログラムが行われたのかを理解する。						
6							
7							
8							
9	・海外研修先のロサンゼルスで活躍するヘアメイクアーティストの技術を見学し、視野を広げる。 ・海外で働くヘアメイクアーティストの価値観を理解する。 ・日本との違いを学ぶ。						
10							
11							
12	・ロンドン、フランス・韓国で活躍するヘアメイクアーティストの技術を見学し、視野を広げる。 ・国ごとの考えの違いや、顧客の違いを理解する。 ・海外で働くヘアメイクアーティストの価値観を理解する。 ・海外での学びの重要性を理解する。						
13							
14						小テスト 5点	
15						配点60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			